

平成30年度 施策評価表(平成29年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信
 施策番号: 14 - 01

1 施策の基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	01 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
主担当局	ひと咲きまち咲き担当局		

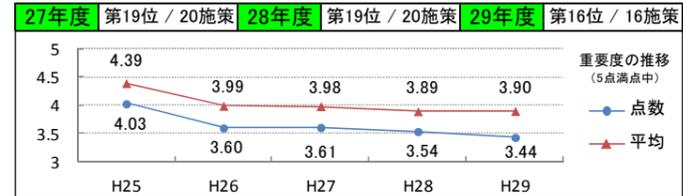
2 目標指標

指標名	方向	目標値(H34)	単位	実績値						進捗率(H29)
				H25	H26	H27	H28	H29	H30~H34	
A 尼崎市のイメージがよくなったと回答した市民の割合	↑	66.0	%	31.8	34.8	40.3	42.6	34.8		52.7%
B 尼ノ國サイトのページビュー数(月平均)	↑	14,500	回	-	-	-	-	11,336		78.2%
C 日刊5紙への尼崎市に関する記事掲載件数	↑	2,050	件	-	-	-	-	1,702		83.0%
D 学校教育と連携した事業の実施回数	↑	85	回	48	76	84	76	60		70.6%
E 文化財収蔵庫・田能資料館主催事業の参加者数	↑	1,700	人	1,089	1,388	1,640	1,208	1,179		69.4%

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	●シビックプライドの醸成
------	--------------

●重要度(28年度以前は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



●満足度(28年度以前は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



4 平成30年度 主要事業一覧

区分	事業名
1	拡充 都市イメージ向上推進事業
2	
3	
4	
5	

平成29年度 主要事業一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

平成28年度 主要事業一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成29年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	●シビックプライドの醸成 総合戦略 ⑤
【情報発信力の強化】 (目的)戦略的・効果的なシティプロモーションに取り組むことで、市民の尼崎への愛着と誇りの醸成を図るとともに、全庁的な情報発信力の強化と、子育てファミリー世代をターゲットとした情報発信を積極的に行う。 (成果)①市の重点施策である「子育て」、「教育」、「学び」、「尼崎城」、「マナー」に関する事業を中心に関係部局と連携を図りながら、記者発表等を積極的に行ったほか、ターゲットに応じた様々な媒体を活用しながらの効果的な発信、市民や企業等からの発信もあり、平成29年度の記事掲載件数は1,702件となった。(目標指標C) ②全職員を対象に、「発信レベルアップ研修」を2回実施し、市職員が広報スキルを学ぶ場を提供したほか、年間広報計画の全庁共有を図った。 ③定住・転入促進情報発信サイト「尼ノ國」では、保育所、学校園を通じ子育てファミリー世帯へサイト周知を行うとともに、尼崎城プロジェクトに関する取組や、動画を活用した教育の取組などの積極的な情報発信を行った。 (課題)①重点施策に係る事業については積極的な情報発信をしてきたが、今後は、更なる庁内連携を図るとともに、市民による地域での活動やまちの身近な話題をさらに発信していく必要がある。 ②職員全体の広報意識や全庁的なシティプロモーションの意識が未だ浸透されていないため、広報計画等を通じて庁内での情報共有を徹底するなど、職員の意識向上につながる取組を強化していく必要がある。 ③「尼ノ國」サイトページビュー数の年間平均が11,336件となっており、今後はサイトを通してより多くの人に親しみと共感を持ってもらえるよう、さらに中身を充実させて積極的に周知するほか、幅広い情報発信ツールを活用し、より効果的な発信をしていく必要がある。(目標指標B) ④「尼崎のイメージがよくなった」と回答した市民の割合が42.6%から34.8%と減少しており、また、昨年度に比べると、幅広い年齢層において「変わらない」という回答が多かったため、課題解決に向けた本市の取組を発信するとともに、プラスイメージとなるようなまちの魅力も積極的に市民に伝えていく必要がある。(目標指標A)	
【市民協働型のシティプロモーション】 (目的)市民自らがまちに関わり、魅力を発信する仕組みを充実させ、さらなるまちへの愛着と誇りにつながるシビックプライドの醸成を図る。 (成果)⑤市報や市公式ホームページ、フェイスブックで本市の魅力や情報を発信するとともに、「尼ノ國」サイト及びインスタグラムを活用して、市民参加型のシティプロモーションを進めてきた。 (課題)⑤市民自らがまちに関わり、身近なまちの魅力を発信しようという意欲を高めるための働きかけが十分にできていない。	
【学校教育との連携による子どもたちの学習機会の提供】 (目的)学校等との連携による歴史・文化財に触れる学習機会や場の拡充を図り、身近な地域の歴史に対する関心を高める。 (成果)⑥文化財収蔵庫では尼崎ゆかりの作物(綿や尼いも)の栽培・活用を通じた歴史学習への支援、学芸員による出張授業を35校で実施したほか小学3年生の社会科の「むかしのくらし学習」では23校が来館した。また、田能資料館では2校で出張授業を実施しており、総数では前年度比でやや減となったが、子どもたちが歴史・文化財に触れる学習機会の充実につながった。(目標指標D) (課題)⑥歴史館機能の整備を見据えて学校教育との連携を拡充できるよう、情報提供の工夫や学習内容の充実に取り組む必要がある。	
【歴史学習の機会提供】 (目的)市民や子どもたちが歴史・文化財に触れる学習機会や場の拡充を図ることにより、身近な地域の歴史に対する関心を高め、愛着と誇りの醸成につなげる。 (成果)⑦文化財収蔵庫が開催した市民向けの歴史講座、夏休みの体験学習事業、史跡見学会等の参加者の総数は昨年度より増加し1,000人で、田能資料館の古代のくらし体験学習会は実施事業の減により前年比で154人減となった。合計ではほぼ前年度並みで、学習機会の提供の拡充に寄与することができた。(目標指標E) (課題)⑦地域の歴史に関する学習機会の提供を継続的かつ、効果的に進めていくため、対応することができる人材の育成や、魅力ある事業内容の検討に取り組んでいく必要がある。	

平成30年度の取組
【情報発信力の強化】 ②職員の広報スキルの向上を目指し、SNS等の効果的な活用を含めた情報発信マニュアルを作成し、全庁共有するほか、まちの賑わいや活動している市民の様子をPRするためホームページ上に「まちの話題、まちの笑顔」のコーナーを開設し、各地域での市民による活動の様子取材するほか、各課に掲載する話題を積極的に提供してもらうよう働きかける。 ④本市のまちづくりのキャッチフレーズである「ひと咲きまち咲きあまがさき」の理念をさらに浸透させるため、ロゴを作成し、効果的な活用を図る。 【市民協働型のシティプロモーション】 ⑤「尼ノ國」インスタグラムは、市民等がまちの魅力を発信するツールとしているが、尼崎に関わる人々が身近なまちの魅力を発信する大切さなどについて、行政と市民等がともに学べるよう、専門家による研修を開催し、市民自らが発信しようという機運の醸成を図る。 【学校教育との連携による子どもたちの学習機会の提供・歴史学習の機会提供】 ⑥⑦城内地区における都市再生整備計画の中心拠点誘導施設であり、歴史学習の拠点となる歴史館機能の整備工事に着手するとともに、工事による休館中は出張授業や館外で事業を積極的に実施することによって、継続的に学習機会を提供できるよう取り組む。また、開館後に実施する歴史学習のプログラムづくりについても検討を進める。

新規・拡充・事業見直し等の提案につながる項目
【情報発信力の強化】 ①②③④さらなる情報発信力の強化等に向けた体制整備を図る必要がある。

6 施策評価結果

・市報、ホームページ、SNSなど、情報発信媒体の多様化に取り組んでいる。
・市民協働型のシティプロモーションとして取り組んでいる「尼ノ國」については、ページビュー数などが伸び悩んでいることから、様々な媒体を活用するとともに、より一層、受け手に興味を持ってもらえるような情報提供に取り組む必要がある。
・より戦略的な広報を行うため、さらに精力的に各部局から情報発信材料を収集するとともに、外部の専門家の力を活用することも含めた今後のあり方を検討する。
・文化財収蔵庫の休館中においても、継続的に学習機会を提供できるよう取り組むとともに、歴史館機能整備後における、学校教育のカリキュラムとの連携のあり方も含めた、よりよい歴史学習のプログラムを検討する必要がある。

平成30年度 施策評価表(平成29年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信
 施策番号: 14 - 02

1 施策の基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	02 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。
主担当局	ひと咲きまち咲き担当局		

2 目標指標

指標名	方向	目標値 (H34)		実績値					進捗率 (H29)
				H25	H26	H27	H28	H29	
A 市内の観光客入込客数(総計)	↑	280.0	万人	209.1	211.0	231.2	240.3	227.6	81.3%
B 市内の観光客入込客数のうち、ホテル等宿泊者数	↑	50.0	万人	32.7	36.5	41.1	41.2	44.0	88.0%
C 市内の観光客入込客数のうち、尼崎城入城者数	↑	H31 22.5万人 H32~15万人	万人	-	-	-	-	-	-
D 観光指針における重点取組地域の中心地の地価	↑	397	千円/m ²	372	372	375	379	383	96.5%
E あまらぶ体験隊参加者の満足度	↑	100	%	-	-	-	-	-	-

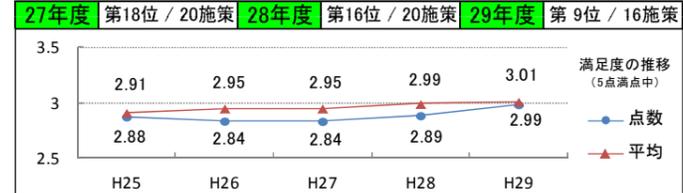
3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	●観光地域づくりと市内外の交流促進
------	-------------------

●重要度(28年度以前は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



●満足度(28年度以前は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



4 平成30年度 主要事業一覧

区分	事業名
1	新規 尼崎版観光地域づくり推進事業
2	新規 尼崎版DMO設立事業
3	
4	
5	

平成29年度 主要事業一覧

区分	事業名
1	新規 観光地域づくり推進事業
2	
3	
4	
5	

平成28年度 主要事業一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成29年度実施内容を記載)
<p>行政が取り組んでいくこと ■観光地域づくりと市内外の交流促進 総合戦略 ⑤</p> <p>【城内まちづくり整備】 (目的)尼崎城の完成を契機とした観光地域づくりを進めることで、交流人口の増加及び市民のまちに対する誇りや愛着の醸成を目指す。 (成果)①尼崎城址公園について、残存する歴史・文化資源を活かした尼崎城と一体的な公園の整備計画を決定し、尼崎城天守北側部の整備工事に着手した。 ②尼崎城の内部展示の整備を行うため、業者の選定を行った。 ③尼崎城の整備に係る費用や維持管理費用の一部として活用するため、一枚瓦寄附、一口城主寄附の募集を行った。(H30年4月時点:一枚瓦寄附 2,447枚 7,343千円 一口城主寄附等 938件 104,955千円) ④尼崎城一般公開に向けて機運の醸成を図るべく、一枚瓦寄附記念会やあまがさき城下町フェスティバルを開催したほか、各地区まつりや出前講座、尼崎城プロジェクトサポーターの募集(H30年4月時点:1,189人)などを実施するとともに、市内外でさまざまなイベント・PRを行った。 (課題)①計画地の一部が未取得である。</p> <p>【地域資源を活用した交流】 (目的)地域資源を生かした観光振興を地域一体で進め、交流人口の増加や経済活性化、地域に対する誇りと愛着を高める「観光地域づくり」を推進していく。 (成果)⑤商工会議所や関係企業などの観光関係者で構成する「尼崎市観光地域づくり懇話会」を設置し、観光振興に関する指針の策定やあまがさき観光局の設立に関する意見交換を実施してきた。 ⑥地域一体で「観光地域づくり」を進めていくにあたり、その舵取り役となる「一般社団法人あまがさき観光局」(以下、「観光局」という。)を設立した。 ⑦城跡の地形に着目した市内散策、工場夜景を楽しむツアー等、地域資源に触れ魅力を実感してもらうイベントを開催した。また地元企業の協力を得て、「阪神電車車両基地」の見学会や食品サンプル工場にて制作体験を行った。(目標指標E) (課題)⑤地域一体での観光地域づくりの推進に向け、観光関係者の連携・巻き込みを図るプラットフォームを構築し、進むべき方向や想いを共有するなど、観光関係者の巻き込みを図る必要がある。 ⑥ア)尼崎城と市内に点在する地域資源を結ぶストーリーの設定など、来城者が周遊し、消費が生まれるよう城を拠点とした周遊の仕組みを構築する必要がある。(目標指標A・B・C・D) イ)平成31年3月の尼崎城オープンに向け、戦略的な観光情報の発信や来街者を受け入れる観光基盤の強化が必要である。(目標指標A・B・C・D) ⑦市内の地域資源を取り上げ、多くの来訪者等に魅力を発信できるよう工夫していく必要がある。(目標指標A・B・C・D)</p> <p>【統計データに基づく観光プロモーション】 (目的)観光面での本市の現状を把握するとともに、今後の観光施策を構築するための基礎データとしていくため、各種観光データの収集・分析を行う。 (成果)⑧尼崎市における観光によるまちづくりの考え方や進め方を示す「尼崎版観光地域づくり推進指針」を策定した。 (課題)⑧観光関連データがあまり蓄積されておらず、現状分析や進捗状況の把握に向け、観光客入込客数を始めた観光統計を実施していくとともに、そのデータに基づく戦略等の策定が必要である。</p> <p>【姉妹都市・友好都市との交流】 (目的)姉妹都市(アウクスブルク市)・友好都市(鞍山市)との友好交流を深めることにより、本市における国際交流の発展に寄与することを目指す。 (成果)⑨姉妹都市・友好都市交流関係事業として、平成29年度はアウクスブルク市の青年使節団及び代表団を受け入れたほか、本市から鞍山市へ小学生使節団を派遣するとともに、小学生書画交流展を実施した。 (課題)⑨使節団の受け入れ時や帰国後の市民交流の活動が活発でない。</p>

6 施策評価結果

平成30年度の取組
<p>【城内まちづくり整備】 ①尼崎城址公園の整備を行い、尼崎城のグランドオープンに併せて供用を開始する。また、未取得の計画地については、用地取得に向けて用地交渉を行う。さらに、地域住民には引き続き丁寧な説明を行い、人や車の誘導を適切に実施できるよう誘導サインの基本計画を策定する。 【地域資源を活用した交流】 ⑤「観光局」を核としたプラットフォームを設置し、地域の観光関係者が有機的につながりながら、具体的な施策の検討や共有を行うことにより、重点取組地域の賑わい創出につなげていく。 ⑥イ)平成31年3月の尼崎城のオープンに向け、市内外への活発な情報発信・PRや機運の醸成を図るイベントを行うなど、観光客の増加に向けた取組を行っていく。また、3都市(大垣市、郡上市)連携協定を締結するなど、積極的に他都市との交流を進める。 ⑦市内の地域資源をより多くの方々に魅力として発信していくため、観光案内機能の強化やメディアの活用等により情報発信力を高めていく。 【統計データに基づく観光プロモーション】 ⑧尼崎城を含む城内地区、寺町、中央・三和商店街といった重点取組地域の面的な取り組み方向を示すエリア計画や、その実現に向けた具体的な取り組みを示す事業計画を定める。 【姉妹都市・友好都市との交流】 ⑨姉妹都市アウクスブルク市と若手アーティストの派遣・受入を行うことで、両市間の文化交流を展開するとともに、若手アーティストの飛躍を後押しする。また、これまで以上に市民との交流を一層深めるための取組を検討する。</p>

新規・拡充・事業見直し等の提案につながる項目

地域資源を活用した交流
<p>⑥平成30年度に再建される尼崎城への来訪者の増加、地域を周遊する仕組みづくりを視野に入れ、最寄駅である阪神尼崎駅と城内地区や寺町の中間地点となる開明庁舎について、尼崎城の城下町における新しい観光地域づくりの拠点としてふさわしい活用に向けた検討を進めていく。 【姉妹都市・友好都市との交流】 ⑨平成31年度に本市とアウクスブルク市は姉妹都市提携60周年を迎えることから、記念式典への出席等について検討していく。</p>

6 施策評価結果

<p>・尼崎城の完成を契機とした観光地域づくりについては、尼崎城の一枚瓦寄附、一口城主寄附で目標の一億円を超えることができた。</p> <p>・今後は、尼崎城のグランドオープンに向けて、「一般社団法人あまがさき観光局」を核に、地域の観光関係者などと連携を密にして、市内外への活発な情報発信・PRやさらなる機運の醸成を図っていく。</p> <p>・観光地域づくりについては、段階毎の目標を設定し、その達成状況や進捗度合いを測りながら取組を進める必要がある。</p> <p>・姉妹都市・友好都市との交流をより意義のあるものとするため、使節団の受入時や帰国後の市民との交流を一層深めるための取組を検討する必要がある。</p>

平成30年度 施策評価表(平成29年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信
 施策番号: 14 - 03

1 施策の基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	03 まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。
主担当局	ひと咲きまち咲き担当局		

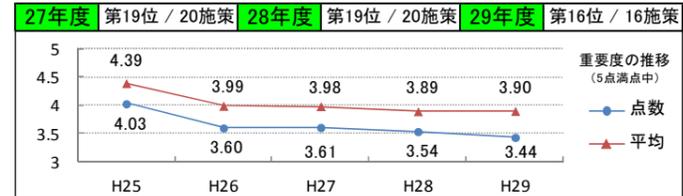
2 目標指標

指標名	方向	目標値(H34)	実績値						進捗率(H29)
			H25	H26	H27	H28	H29	H30~H34	
A 尼崎市総合文化センター及び本市が実施した文化芸術事業への参加者数	↑	349,000 人	318,952	307,903	314,915	302,975	304,420		87.2%
B 尼崎市総合文化センター稼働率	↑	55.0 %	41.0	40.0	46.0	46.0	45.0		81.8%
C 若者支援を対象にした文化芸術事業への参加者数	↑	4,950 人	425	362	2,226	3,515	3,583		72.4%
D 影の尼崎観光特使来庁回数(出席数)	↑	18,000 回	1,842	3,467	5,611	8,282	9,675		53.8%
E									

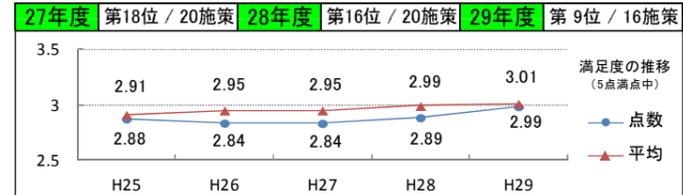
3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	●新たな魅力づくりによる文化振興
------	------------------

●重要度(28年度以前は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



●満足度(28年度以前は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



4 平成30年度 主要事業一覧

区分	事業名
1	拡充 若者の夢創造・発信事業
2	
3	
4	
5	

平成29年度 主要事業一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

平成28年度 主要事業一覧

区分	事業名
1	新規 尼崎市総合文化センター補助金等
2	
3	
4	
5	

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成29年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	●新たな魅力づくりによる文化振興
【文化活動の場づくり】	総合戦略 ⑤
(目的)尼崎市文化振興財団を中核として、市民の文化活動を推進することで、本市文化の向上発展を図り、まちの魅力と活力を高める。	
(成果)①文化施策の指針となる尼崎市文化ビジョンを平成29年2月に策定し、本市が目指す姿や取組の柱に沿った文化事業が展開されているかを評価する仕組みを構築した。	
②尼崎市総合文化センターについては、財団名称を「公益財団法人尼崎市文化振興財団」(以下、「財団」という。)に改め、今後、尼崎市文化ビジョン推進の中核となり多様な主体のネットワークの拠点として、マネジメントやコーディネートを担う役割を果たせるよう検討した。	
③財団では、文化振興を図るため、ホールにおいて音楽・バレエ・演劇、古典芸能などの催しを開催したほか、市展や文芸祭などの文化振興事業を実施し、本市の文化芸術事業を含めると年間304,700人の参加があり、市民が文化・芸術に親しむ姿が見られた。(目標指標A・C)	
④全国から戯曲作品を募る「近松賞」では、62作品の中から、近松賞と審査員奨励賞を各1名選定した。その他、世界的に評価の高い白髪一雄氏の作品について、尼崎市総合文化センター内の記念室や美術ホールで展覧会を開催した。	
⑤表彰事業では、尼崎市民芸術賞・奨励賞を各1名、文化功労賞を3名顕彰した。また、奨励賞の位置づけを明確化し、若手芸術家の育成と市民の芸術文化創造への意欲喚起を目的とした「尼崎市文化未来奨励賞」を新たに創設した。	
(課題)①②尼崎市文化ビジョンに基づく市全体の文化事業の評価を活用し、関係部署との十分な連携を図りながらPDCAサイクルで見直していくとともに、市と財団の役割分担を明確化し、財団の組織体制の構築、文化事業の見直し、施設の耐震化・老朽化への対応、効果的・効率的運営など、今後のあり方について方向性を示す必要がある。	
③④尼崎市総合文化センターの稼働率や参加人数を、目標値に近づけ、市補助金の有効な活用に資するためには、より多くの方々に優れた芸術文化に親しむ機会を提供できるような事業内容の再構築を求めていく必要がある。(目標指標A・B)	
④白髪一雄氏の作品や功績を広く発信するため、同氏の作品を活用した事業の実施を検討する必要がある。(目標指標A)	
【若者の夢の応援】	
(目的)若年層をはじめとした市民に芸術や地域文化を発信し、その魅力に触れてもらう機会の充実を図ることで、次代の担い手を育成する。	
(成果)⑥13歳から19歳を対象に尼崎市総合文化センター等が実施する公演等を500円で鑑賞できる「ティーンズサポートチケット」のPRを行った。平成29年度は公演構成・PR方法・申込方法を見直し、125人の申し込みがあり、一流の芸術を身近に体験する機会を提供することができた。(目標指標C)	
⑦市内小学校等で芸術体験を目的とした「アウトリーチ事業」を、音楽部門33公演・美術部門10回実施した。また、山岡記念財団主催の市内中高生が世界的な音楽家である大植英次氏と交流するレッスン&コンサートに協力するとともに、郷土画家・白髪一雄の足で描くフットペインティング体験を行い、子どもを中心に音楽・美術の魅力に触れてもらうことができた。	
⑧「あまらぶアートラボ運営事業」では、展覧会を5回、ワークショップを7回、アーティスト等によるトークイベントを8回開催した。特に、地域ゆかりのアーティストをとりあげた講座や園田学園女子大学との連携による展覧会等、まちの魅力や資源を活用した事業を展開した。ワークショップや「うごく」作品の展示を行った夏休み企画では、子どもから好評評価を得た。その他、ミニライブを行う等イベント回数を増やし内容を工夫した結果、3,133人が来場し、若手芸術家の発表・創作の場として若い人の夢を後押しするとともに、市民に芸術に親しんでもらう場として活用することができた。(目標指標C)	
⑨近松記念館において大学生向けの「尼崎落研選手権」を開催し、170人が来場した。過去の受賞者が全国大会で活躍することで昨年度より参加校が広がり、関東や九州からの参加が増え、本市の地域資源である「落語」を広めるとともに、若い人がチャレンジできる環境を提供した。(目標指標C)	
⑩市内の地名をめぐるアニメ忍たま乱太郎のファンを対象にした「影の尼崎観光特使」では、新規登録者とりピーターの来庁回数が9,000を突破し、合計30回の来庁で卒業を迎えた海外出身者が現れる等、国内にとどまらず地域の魅力として発信できた。(目標指標D)	
(課題)⑥ティーンズサポートチケット事業について、PR回数を年1回から3回に増やし公演内容を工夫したが、申込者数は伸び悩んでいる。	
⑧あまらぶアートラボ運営事業について、来場者数が前年度と同等のため、引き続き参加者数を増やすためのPRを強化する。	
⑨落研選手権に参加した学生が、子ども等に落語の魅力を伝える仕組みづくりを検討していく。	

平成30年度の取組
【文化活動の場づくり】
①尼崎市文化ビジョンを推進するため、市の文化事業が取組の柱に沿って実施できているかを検証し、関係する部署と連携しながらPDCAサイクルで文化振興を図っていく。
②③④平成30年度より文化特命担当を新設し、尼崎市文化振興財団が文化振興の中核的役割を果たせるよう、より効果的・効率的運営を目指し、尼崎市文化ビジョンに沿った事業展開や、必要な機能に合う施設規模を検討し、耐震化・老朽化への対応について、引き続き財団と検討していく。
⑤若手芸術家の育成と市民の芸術文化創造への意欲喚起を目的とした「尼崎市文化未来奨励賞」を設け、受賞者が市内で発表するなど、市民に尼崎で育まれている芸術を鑑賞する機会を提供していく。
【若者の夢の応援】
⑥ティーンズサポートチケット事業について、1グループ5人までの応募を可能とする新しい申込方法を導入して実施する。
⑦昨年度山岡記念財団主催で実施した大植英次氏と交流するレッスン&コンサートを、平成30年度は同財団からの寄付による市、同財団の共催事業として実施する。
⑧あまらぶアートラボ事業について、姉妹都市であるアウクスブルク市(ドイツ)と互いにアーティストを派遣し合い、若者のさらなる飛躍の後押しをするとともに国際的な文化交流を展開する。
⑨落研選手権の受賞大学を講師として、市内小学校等で落語の授業等を行う。

新規・拡充・事業見直し等の提案につながる項目

【文化活動の場づくり】
②限りある財源のなかで、文化ビジョンに沿った効果的・効果的な文化事業の推進や、ふさわしい施設整備を実現していくため、民間活力の活用や、財源の確保などについて検討を進める。
④世界的にも著名な郷土作家・白髪一雄氏の功績等を広く発信していくため、同氏の収蔵品を活用した巡回展の実施を検討する。

6 施策評価結果

・平成29年2月に尼崎市文化ビジョンを策定し、「文化の担い手が活躍しているまち」「文化資本が次世代に継承されているまち」「市民の地域への愛着が高まっているまち」といった、本市が目指す姿などを明らかにした。
・今後は、尼崎市文化振興財団を中核として文化振興に取り組むため、市直営で実施している文化施策のあり方、文化施策の市と財団の連携のあり方について検討していく。
・郷土画家である白髪一雄氏の作品展を開催したほか、これまでの長年にわたる国際交流の蓄積の成果としてプロ奏者によるレッスン&コンサートが実施されるなど、市民に芸術に親しんでもらう機会を提供することができた。
・今後は、より効果的なPR手法などを検証し、本市の魅力でもあるこれらの芸術を、一層、市内外に発信していく必要がある。

平成30年度 施策評価表(平成29年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信
 施策番号: 14 - 04

1 施策の基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	04 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
主担当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	目標値(H34)	実績値							進捗率(H29)
			H25	H26	H27	H28	H29	H30~H34		
A 歴史や文化財等に関するボランティア活動参加延べ人数	↑	4,792 人	2,746	3,204	3,629	3,699	3,187		66.5%	
B 文化財収蔵庫での展示会の観覧者数	↑	20,000 人	1,228	10,579	11,397	13,081	12,721		63.6%	
C 田能資料館での展示会の観覧者数	↑	28,000 人	12,600	11,685	29,625	26,003	28,782		100%	
D 地域研究史料館相談利用(レファレンス)人数	↑	2,345 人	1,877	2,201	2,442	2,495	2,345		100%	
E 地域研究史料館講座・自主グループ参加人数	↑	1,212 人	870	848	820	977	1,167		96.3%	

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	●歴史遺産等の保存と活用
------	--------------

●重要度(28年度以前は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



●満足度(28年度以前は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



4 平成30年度 主要事業一覧

区分	事業名
1 拡充	城内まちづくり整備事業
2	
3	
4	
5	

平成29年度 主要事業一覧

区分	事業名
1 拡充	城内まちづくり整備事業
2 新規	田能遺跡サポーター養成事業
3	
4	
5	

平成28年度 主要事業一覧

区分	事業名
1 新規	100周年記念事業新市史刊行事業
2	
3	
4	
5	

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成29年度実施内容を記載)	総合戦略	⑤		
<p>行政が取り組んでいくこと ■歴史遺産等の保存と活用</p> <p>【文化財収蔵庫における文化財・歴史資料の調査・収集・保存】 (目的)文化財や歴史資料等の調査・収集を進め、地域資産として有効活用できるよう保存を図り、まちの魅力発信に寄与する。 (成果)①市内に所在する指定・登録文化財件数は市指定・県指定が各1件増えて計110件となり、開発行為に伴う埋蔵文化財の取り扱いの事前調整や発掘調査等も円滑に実施することができた。また、文化財収蔵庫が収蔵する歴史資料等は27,161点となり、貴重な地域資産の保存に貢献することができた。(H26年度・・・27,031点、H27年度・・・27,094点、H28年度・・・27,152点) (課題)①埋蔵文化財の発掘調査等を円滑に進めるとともに、歴史館機能の整備を見据えて文化財や歴史資料等の収集・保存を計画的に進めていく必要がある。</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館における文化財・歴史資料の公開・活用】 (目的)文化財や歴史資料等を展示公開することで、尼崎の歴史や文化財への関心を高め、シティプロモーションにも貢献する。 (成果)②文化財収蔵庫で開催した展示会の観覧者数は市制100周年企画によって増加した昨年度実績には及ばなかったが、一昨年度実績を上回る12,721人で、田能資料館の展示会とともに、収蔵資料の有効活用や市内外へのPRにつながった。また、田能資料館では田能遺跡の紹介動画3本をインターネットに掲載し、PRを図った。(目標指標B・C) (課題)②展示公開等による文化財・歴史資料の活用をより積極的、かつ継続的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>【地域研究史料館における歴史資料の保存と活用】 (目的)所蔵史料の整理・公開を進め、地域の歴史を学ぶ環境を整えていく。 (成果)③平成29年度末現在所蔵点数36万5,000点で平成28年度より4,500点増加、このうち4,600点を年度中に整理・公開し、累積整理公開点数28万点。所蔵に対する整理公開比率は77%となり、多様な利用者への史料の閲覧提供等につながった。歴史館機能の整備に合わせ、史料の整理・見直しを実施し、またデジタル化による保存・活用の準備を進めた。 ④史料利用・公開の分野では引き続きレファレンスサービスに注力した。年間相談利用人数は2,345人と市制100周年を機に過去最高を記録した平成27・28年度に近い水準を維持した。(目標指標D) ⑤市制100周年に刊行した新市史をテキストとする市史を読む会を開始した。さらに平成29年度より北図書館で『図説尼崎の歴史』をテキストとする市史を読む会も新たに開始した。自主学習グループ(近世尼崎の古文書を楽しむ会)参加人数とあわせ、延べ1,167人の参加を得た。引き続き学習機会の提供に努める。(目標指標E) (課題)③引き続き歴史館機能の整備に向けた史料の整理・見直しを実施し、デジタル化による保存・活用の準備を進めるとともに、公文書館事業の本格的な実施に向けた準備・検討を進める。 ④歴史的公文書等の閲覧利用充実にに向けた体制を整備する必要がある。</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館における市民ボランティアとの協働】 (目的)ボランティアや市民グループ等と連携して市民が歴史や文化財に触れる機会を提供し、歴史遺産の保存と活用に貢献する。 (成果)⑥文化財収蔵庫での体験学習事業や、文化財の整理作業等を学芸員と協働で実施している市民ボランティアグループ2団体の活動者数は、ほぼ前年度並で、協働の取り組みが順調に推移している。田能資料館では、実施する事業内容の変更等もあり前年度より参加人数が減るとともに、両館の総計では前年度比では減少となった。(目標指標A) (課題)⑥文化財収蔵庫で活動する市民ボランティアとの連携・協働を継続的に取り組んでいく必要がある。また、田能資料館では、市民ボランティア活動のさらなる活性化を図る必要がある。</p> <p>【地域研究史料館における史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】 (目的)歴史資料等への関心を高め、親しみや愛着を醸成していくため、多くの人々が事業に深く関わる機会を提供する。 (成果)⑦作業回数539回、参加実人員84人、延べ680人。多様な作業体験機会を作り、作業成果を得ることができた。市民協働事例として学術雑誌等で紹介するなど、成果の発信にも努めた。(目標指標A) (課題)⑦市民ボランティア参加者数の増加に対応するための作業環境を整備する。</p> <p>【まちづくり活動と連携した歴史遺産の保存と活用】 (目的)貴重な地域資産である史跡・文化財等をまちづくり活動を進める市民グループと連携・協力することにより保存・活用を図る。 (成果)⑧富松城跡の保存・活用に協働で取り組んでいる市民グループと連携して開催した富松城跡の保存と活用をテーマとするシンポジウムには、当初の予定を超える208人の参加者があり、富松城跡の効果的なPRとなり、歴史遺産の情報発信につながった。 (課題)⑧引き続き富松城跡の周知に努め、保存活用の進め方を市民グループや学校等と連携して検討していく必要がある。</p>				

6 施策評価結果

<p>・歴史館機能の整備にあたっては、創意工夫を凝らした魅力ある常設展となるよう、基本的な考え方を示す必要がある。</p> <p>・地域研究史料館における史料については、市民ボランティアの協力を得る中で整理・活用を進めているところである。今後、他都市の事例なども参考に、より効率的な史料の保存方法などを検討していく必要がある。</p>

平成30年度の取組
<p>【文化財収蔵庫における文化財・歴史資料の調査・収集・保存】 ①歴史館機能の整備工事に着手するとともに、工事に伴い文化財収蔵庫は下半期から休館し仮事務所に移転する。 【文化財収蔵庫・田能資料館における文化財・歴史資料の公開・活用】 ②文化財収蔵庫休館中は総合文化センター美術ホール等で歴史資料の公開を図る。 【地域研究史料館における歴史資料の保存と活用】 ③歴史館機能の整備に向けた史料の整理・見直しを実施し、史料のデジタル化による保存・活用の準備を進める。公文書館事業の本格的な実施に向けた準備・検討を進める。 【文化財収蔵庫・田能資料館における市民ボランティアとの協働】 ④文化財収蔵庫の仮事務所への移転に伴い、施設内で市民ボランティアが円滑に活動できるような設備・体制を整える。 【地域研究史料館における史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】 ⑤市民ボランティア作業の運営方法の見直しを行うなど、作業の環境整備に取り組む。 【まちづくり活動と連携した歴史遺産の保存と活用】 ⑥富松城跡については、尼崎城プロジェクトと関連させた効果的なPRや活用を市民グループや学校等と連携しながら取り組む。</p>

新規・拡充・事業見直し等の提案につながる項目
<p>【文化財収蔵庫・田能資料館における文化財・歴史資料の公開・活用】 ②歴史館機能の開館準備を関係各課と連携して着実に進める必要がある。また、平成32年秋の開館後は本市の歴史・文化財に関する拠点施設として多くの市民に親しまれる施設となるよう、国庫補助事業等を活用しながら、創意工夫を凝らした魅力ある展示会等の諸事業を積極的に開催していく。 ②開館に合わせて、民間倉庫で保管している歴史資料等を歴史館機能に移し、保管経費の削減を図る。 【地域研究史料館における歴史資料の保存と活用】 ③歴史館機能の整備に向けた史料の整理・見直しを実施し、史料のデジタル化による保存・活用の準備を進めることで、地域の歴史等に関する新たな情報発信に取り組む。</p>